

ADVERTISING FEATURE

編集特集「一冊まるごと最新オフィス」連動 広告企画

オフィス最前線 2025 夏

オフィスやワークプレイスへの人材回帰が強まっています。
リモートでの働き方はひとつの手段として確立されましたが、
人と人が直接会って生み出すイノベーションのためには、人が集う場が不可欠です。
経営者はもちろん、設計者やデザイナー、企業の総務・人事担当者は
知恵とアイデアをもって働く場を創造するために必死です。
本企画では、さまざまな働く場の事例紹介に加え、
よりよい働く場を実現するための製品やサービスなどを紹介します。

※価格は税込金額です。

※掲載製品に対する資料請求は、
ネットからご請求いただくと早くて便利です。
<https://www.shotenkenchiku.com>
「コンテンツ」→「メーカーカタログ請求」
※挟み込みの資料請求ハガキからも
ご請求いただけます。

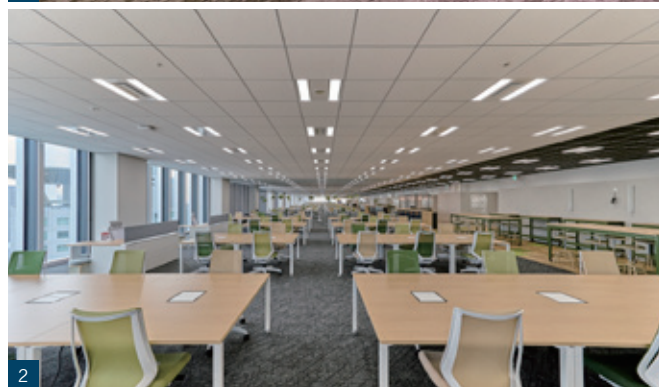


※ウェブメディア『id+』でも
記事をご覧ください。
<https://www.shotenkenchiku-plus.com/>



企画から施工までの一貫対応による“人”のためのオフィスづくり

デザインアーク —たけでん JP TOWER OSAKA 27階オフィス—



施設空間のプランニング・設計・施工のスペースソリューション事業、暮らしの空間を中心にインテリアコーディネートを行うインテリア事業、建材製品の開発・製造販売の建材事業、仮設事務所向けに備品やエアコン等を貸し出すレンタル事業の4つの事業を柱に、人と空間を繋ぐ架け橋となる企業を目指すデザインアーク。ダイワハウスグループの一員である同社が手掛ける空間は住宅や商業施設、大規模イベントに至るまで多岐に渡り、現在、開催中の「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」においても約10ものエリアの設営に携わっている。中でも、デザインアークはオフィス備品メーカーとして創業した歴史をもち、それだけに、オフィスづくりは同社の根幹とも言える事業分野となっている。

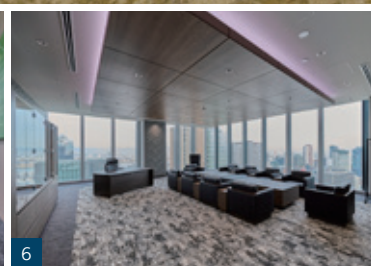
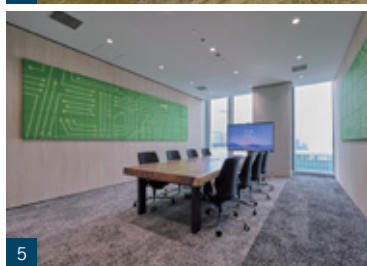
電子回路をデザインに取り込んだ社内外の共創オフィス

電材住建の総合商社「たけでん」では、10以上に分かれていた拠点を「JP TOWER OSAKA」27階のワンフロアに集約し、2025年1月に、新たなオフィスをオープンさせた。デザインアークへの要望は、社員同士、また、社員と社外の人間とが関わり合い、集う場とすること。そして、取引メーカーの商材を空間へと取り込み、ショールームの機能ももたせるというものであった。

これを受け、デザインアークが打ち出したコンセプトは、tell＝伝える、electric＝電子、arium＝～な空間を組み合わせた“tellectrium”。グラフィックやサインも含め、電子回路を彷彿とさせるようなデザインを随所に散りばめ、さらに、“集う”やコーポレートスローガン

DesignArc

 Daiwa House Group®



1 / 電子回路をイメージしたエントランス。光るコーポレートロゴのモニュメントも「たけでん」の照明プランナーとのコラボレーションによってつくられた
2 / 執務エリアでは、社員約350人の全員分の席が確保されており、多様な部署の人間が垣根を超え、関わり合いながら働いている
3 / オフ（休憩用）のギャザリングスペース。四角いデスクが並ぶ執務エリアとは異なり、円形のデザインを取り入れることで、優しい空間となっている
4 / 打ち合わせや商談だけでなく、取引企業がサテライトオフィスとしても使える空間として設計されたワークフリースペース。コワーキングオフィスのような設えで、オフィス内の交流の場となっている
5 / ブランディングスペースの奥にある商談用やリクルート用のレセプションルーム。壁の吸音パネルには電子回路をイメージしたグラフィックで「たけでん」と描かれている。この吸音パネルやタマリンド材のテーブルも取引企業の製品であり、ショールームの機能も併せもっている
6 / 役員エリアの中の社長室。役員エリアには他に3つの部屋があり、間接照明、ペンダント、光幕天井など、クライアントへのプロモーションの場としても活用されている

「たけでん JP TOWER OSAKA 27階オフィス」DATA

床面積 / 約3970㎡（1200坪）、施設利用者数 / 約350人、
工期 / 2024年7月～2024年12月、竣工 / 2024年12月

である“クロスアクション”もキーワードとして取り入れた空間を構築していった。

正面にうめきたエリアを一望できるエントランスの床のクロス模様は壁のライン照明、そして天井のライン照明へと繋がり、電子回路とクロスアクションを表現。ここに置かれた162インチスクリーンと、すぐ脇にあるブランディングスペースに設置された3台の縦型デジタルサイネージでは、自社や取引企業のプロモーションが映し出され、エントランスから「たけでん」の顔が見える設えとなっている。その奥には取引企業がサテライトオフィスとして使うこともできるワークフリースペースがあり、コーヒーマシンも設置されたここは社内外のコミュニケーションの場となっている。その他、それぞれ異なる家具メーカーと照明メーカーでつくられた6室のミー

ティングルーム、商談用の2室のレセプションルーム、80人用会議室があり、ここまでが社外との共創エリアとなっている。

社員専用エリアはフリーアドレスの執務スペースを中心に、20人用会議室、スタジオ、社内プレゼンテーションやセミナー用のオンと休憩用のオフの2つのギャザリングスペース、役員スペースで構成。執務スペースはテーブル席、ABWゾーンなど、350人ほどの社員全員分の多様な席が用意されており、照明プランナーやAV設計チームなどの社員が働く。天井の配線ダクトではさまざまな照明器具を試せるようになっている。また、ライティングデザインに関しては、ビルの既存照明以外の照明は「たけでん」の照明プランナーとのコラボレーションで構築されており、すべて用途や時間による調光や調色も可能となっている。

デザインアーク —大和ハウス工業宇都宮支店—



新しい価値を提案する「仕掛け」が詰まったワークスペース

「大和ハウス工業宇都宮支店」では、“出社したくなるオフィス”をコンセプトに、1997年（2006年増築）からあるオフィスの全面改装を手掛けている。

まず、1階のエントランスは、暖炉と大谷石を採用した壁面で落ち着きと上質さを兼ね備えた迎えの場を演出。来客エリアのリニューアルも担っている。

ここを訪れたゲストは、エントランスの奥にあるもう一つの自動ドアを抜け、弁柄色の印象的な造作壁を右手に見つつ、木漏れ日のようなライティングが降り注ぐ廊下を進む。すると、正面の大きく窓

を取った円形フロアの中央にそびえ立つシンボルツリーに目を奪われる。木目のルーバーで緩やかに区切られたミーティングブースの他にも、3面モニターと青、ピンク、緑、ベージュのアースカラーのソファを配したプレゼンテーションルーム、顧客が外壁や壁紙を選ぶコーディネートルームも設けられている。顧客のためのデザインコンセプトである“未来へつながる”が見事に具現化されている。2階と3階の執務エリアでは、リラックスしつつ集中できるようグレーとネイビー、黒を基調としたシックなワークスペースが構築されている。

基本的にフリーアドレス席としている。2階フロアの中央にはグラデーションシートを貼ったアートのような柱と一体になったカウン

DesignArc

 Daiwa House Group®



4



5



6

「大和ハウス工業宇都宮支店」DATA

床面積／約3500㎡、施設利用者数／130人、工期／2024年11月～2025年3月、竣工／2025年3月

1／シンボリックな柱を設えた執務エリア。グレーを基調にネイビーのアクセントウォールでシックな空間に仕上がっている 2／まるでラグジュアリーホテルのようなエントランス。社員だけでなく、訪れる顧客を最初に迎える空間でもある 3／来客エリアのデザインコンセプトは、“未来へつながる”。廊下の先には、ゲストの明るい未来を暗示させるかのように天窓からの陽光を浴びたシンボルツリーが立っている 4／3階のカフェエリア。コーヒーマシンが設置されている奥のスペースは照度を落とし、バーのような雰囲気になっている。休憩や雑談、ミーティング、一人での集中作業など自由な用途で使い、新オフィスにおけるコミュニケーション活性化の仕掛けとなっている 5／来客エリアには、顧客に向けたプレゼンテーションルームも用意。天井に向かって青から黒のグラデーションの壁やアースカラーのソファ、調光可能な照明でプレゼンテーションに合わせて演出を変化させる 6／3段あるつくり付けのひな壇の正面に3台の大型モニターを設えたサウナ型のミーティングルーム。活発な打ち合わせを誘発する

ター席があり、他にも2人用、4人用のミーティングテーブルなど、働くシーンに合わせて選択できるさまざまな席が用意されている。この他に、3段のひな壇と3台のモニターを擁するミーティングルームと、半円型のハイカウンターウェブ会議室、タッチ操作できる大型モニターを設置したレセプションルーム、1人用ブースなど多様な空間が設えられている。

3階には、2階と同じハイカウンターに加え、大型モニターとテーブル付きチェアで可変使用できるオープンなミーティングスペースとカフェエリアを新設。カフェエリアの最奥、木目のルーバーをあしらった天井と黒壁のバーのような空間にはスターバックスのコーヒーマシンが設置されており、その手前にはビッグテーブルやカウ

ンター席、円形ソファが配されており、スターバックスの店内をイメージした世界観が再現されている。さらに4階には、木のぬくもりが感じられる休憩室もつくられている。

実務と休憩、そして、コミュニケーションの場であり、従業員のモチベーションを高める。企画・提案からデザイン、施工までを一貫対応するデザインアーク。コロナ禍を経て、オフィスは単なる仕事場ではなくなっている。コミュニケーションや共創が常にキーワードとしてある今、さらに、それ以上の価値が求められている。デザインアークでは、これからも実際にオフィスで働き、生産性を上げる資本となる“人”を大切にしたいオフィスづくりを行っていく。

再生紙でできた循環型サステナブルチェア Catifa Carta

arper



1

Photo : Salva Lopez

イタリアの「Arper(アルペール)」は、1989年に創業した、グローバルインテリアブランドである。シンプルかつモダンなデザインの家具は、機能性と美しさに定評があり、世界中のオフィスや公共施設、学校などで使われている。昨今、環境に配慮したプロダクトに注目が集まっているが、同社は2005年、世界でいち早く環境部門を立ち上げて、環境に配慮した製品開発に力を注いできた。2008年にはイタリアで初めてチェア的环境宣言を取得し、2018年にはEPD環境プロセス認証を取得するなど、環境へ意識を向けたマテリアル・製品の開発を行なっている。「Catifa Carta(カティファ カルタ)」は、同社のアイコンチェアである「Catifa(カティファ)」をベースにデザインされた、再生紙を原料とするシェル構造のチェアだ。29枚の再生紙を100%生物由来成分を接着剤として使用し、圧着してシェルを成型。従来の化学接着剤は使用せず、家具の寿命を迎えた際は、適切な熱処理を加えてバイオ炭を生成させ、

これを土に還すことで、多孔質の炭は菌類や微生物の棲家となり、豊かな森を育てる糧として循環していく。

53cmの座面サイズのシェルは、紙で作られているとは思えないほど堅牢で強度があり、腰から背中にかけて緩やかなカーブを描くシェルが、しっかりと身体を包み込む。熱による圧着成型の際に生じるマットな黒色が特徴で、脚は5タイプから選べる。シェルと脚は簡単に組み立て、分解が可能。自由な演出ができるだけでなく、メンテナンスやリユース、リサイクルもしやすい点も魅力だ。

「Catifa Carta」は、2025年6月から国内での販売を本格化させる。東京・外苑前のショールームでは、実物のほか、原料の再生紙や圧着後のシェル、バイオ炭など、循環していく過程でのマテリアルサンプルも展示する。ぜひショールームを訪れて、最先端のサステナブルチェアが生まれる過程を知り、座り心地を体感してほしい。



2

Photo : Alberto Sinigaglia



3

1 / 再生紙を圧着成型したシェルは、熱処理を加えることでバイオ炭へとなる。CO₂排出量を最小限に抑えるだけでなく、資源を捨てずに循環させる設計

2 / オフィスや学校、公共施設など多くの納入実績を持つ同社は、日本市場において今後ますます拡がりを見せるだろう

3 / 東京・外苑前のショールームでは、「Catifa Carta」のライフサイクルを分かりやすく展示。そのほか、さまざまなコレクションのチェアやソファを多数そろえる。2025年6月にはリスタイリングする。予約制

製品紹介 ——— Product Introduction

端正なシルエットと機能性を両立したワークチェア

Kinesit Met

「Kinesit Met (キネジット メット)」は、昇降・傾斜・ロックングといった調整機構と、ランバーサポートをすべてシート内部に収めることで、ミニマルデザインを実現したワークチェア。背もたれにはほどよい柔軟性があり、動きに呼应するようにしなやかに反応するため、長時間の作業でも無理のない姿勢を保ち、疲労感を抑える。ベースカラーはシックな鈍色のメタリックカラーでスペースグレー、アントラサイトグレー、コッパーの3色展開。バックレストはミディアムとローの2種類の高さをそろえ、シートはファブリックとレザーの豊富な張り地から選べる。また、オプションでベースと同色のアームレストも用意。サイズ：ローバックw630×d625×h840～960 (sh420～540)mm、ミディアムバックw630×d625×h955～1070 (sh420～540)mm ※ いずれもアームレストなし、価格：250,800円～

Arper Japan

URL◎<https://www.arper.com>

Mail◎arperjapan@arper.com



オフィス内のさまざまなスペースに取り入れやすいチェア

PASSARO

コントラクト家具ブランドCRESの「PASSARO (パスARO)」は、スタイリッシュなフォルムと優れた掛け心地が特徴のチェア。アームレストの有無や、キャスター付きの回転脚や四本脚など全6種類の豊富なバリエーションから用途に合わせて選べる。ワークスペースやミーティングスペースだけでなく、オフィスにおけるカフェスペースにもよく合い、統一感のある空間を演出する。写真は「PASSARO BCW」(回転脚・肘付き・キャスター付きタイプ)。詳細はWEBカタログを参照。サイズ：w595×d575×h785 (sh450) mm。

パブリック

URL◎<https://www.cres-public.com>

電話◎ (052) 212-3721

“刺し子織”をモチーフにデザインされた床材

BOLON BY PATORICIA URQUIOLA

日本人の知恵がつくり出した“刺し子織”をモチーフにパトリシア・ウルキオラがデザインしたBOLONのシリーズ。BOLONが持つ重歩行対応の耐久性や素材の優しい色合い、肌触りなどの特長はそのままに、やさしい色合いとパッチワークのようなデザインが、モダンな雰囲気を醸し出し、女性らしさを感じさせる。カラーは4色をラインアップ。オフィスを始め、ホテル、ショップなどに最適。サイズ：幅2m×1～25m巻き×t2.4mm、長さ1m単位での販売。価格は要問い合わせ。

アドヴァングループ

URL◎<https://www.advan.co.jp/>

電話◎ (03) 3475-0194





ワンタッチで高さを調整できる電動昇降式デスク E7H

コントローラーで簡単に昇降できるデスク「E7H」。上下昇降機能、ロック機能、複数の高さをセットするメモリ機能のほか、USBハブを搭載し、シーンによってワンタッチで調整可能。コの字型のシンプルなデザインで、ホワイトとブラック色のフレームにはSPCCスチールを採用。耐荷重160kgの耐久性を備え、複数のモニターを安心して設置できる。天板は長方形やカーブ型、モニタースタンド付きや配線スリット付きなど豊富な形状と天板色をそろえる。また、天板下にはケーブルトレイとカバーを用意し、デスク回りのケーブルマネジメントまで考えられた設計。写真はオフィスチェア「C2」との組み合わせ。昇降範囲：635～1285mm、価格：63,800円～。

FlexiSpot Japan

URL◎<https://www.flexispot.jp/>

Mail◎marketing@flexispot.jp

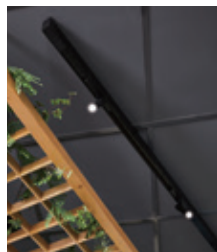
オフィス空間に最適な照明+音響システム KSCAPE RAILシリーズ

イタリア・K-arrayが展開するブランド、KSCAPEはオーディオと照明が一体化した、オールインワンのサウンド&ライトシステム。特に建築・デザイン上の理由から、視覚的に目立たせたくないオーディオシステムを提供する。写真の製品「KSCAPE RAILシリーズ」は、オフィス空間に適した照明+音響のシステム。従来はオーディオ機器に付随するだけの照明が多かったが、同製品は、DALI制御はもちろん照度計算や消費電力のシミュレーションも可能。ウェブミーティングのスピーカーとしても好適。多彩な組み合わせ・設置方法が可能で、さまざまなオフィス空間を快適に演出する。

エンター・サンドマン

URL◎<https://www.entersandman.jp/>

Mail◎info@entersandman.jp



オフィスにカフェのような空間を 創造するタイル

TILE PARK

働く人々にとって、カフェのような寛ぎの空間は今やオフィスに欠かせない要素となっている。オフィスの窓際に設けられたカウンターの腰壁には、大理石調の六角形タイル「ボルケット」を施工。マット仕上げの滑らかな質感が魅力的。床には特注デザイン貼りを採用し、白と黒のモザイクタイルを使い、設計者のデザインに沿ってモザイクシートを作成・納品するサービスにより、オリジナルパターンを製作。写真の物件は「トレードピアお台場19階 セットアップオフィス」（施工／いちご地所、設計施工／フロンティアコンサルティング）。

TN コーポレーション

URL◎<https://tile-park.com/>

電話◎0120-1223-68

オフィス共用部の価値を高める木製ベンチ Root

造作家具製作や建材加工を行うアーティストリーの「Root (ルート)」は、日本でも珍しい3D形状の木製ベンチ。4～6人掛けのゆったりしたサイズで、曲線を生かしたデザインと安定感のある座り心地が特徴。オフィスビルのエントランスやロビーなど、来訪者を迎える空間に最適な家具。写真は国産ヒノキ材使用、オイルクリア塗装のもの。他樹種の使用、着色、ウレタン塗装にも対応する。サイズ：w3200×d800×h1100mm。

アーティストリー

URL◎<https://www.artistry.co.jp/>

電話◎(0568) 33-3719



オフィスの安全性を高める発火防止コンセント プレートラックコンセント スクエア

河村電器産業の「プレートラックコンセント スクエア」は、コンセントとブラクの隙間に溜まったホコリによる火災を未然に防ぐ電気設備。コンセントブラク間に溜まったホコリに湿気が付着すると、微小な放電を繰り返し、発熱が起こる。その際に発生する電荷ガスを検知し、自動で通電を遮断、発火を防ぐ。熱を検出するものとは違い、製品が作動後もホコリを掃除すれば継続して使用可能。掃除のしにくいオフィスのパソコンまわりやバックヤード、湿気の多い給湯室やトイレなどに最適。写真のグレー含め全3色展開、エアコン用も用意している。

河村電器販売

URL◎<https://www.kawamura.co.jp/>

電話◎090-8504-5626



オフィス空間に上質な印象をもたらすLEDペンダントライト Ashford

アイルランド北部の緑豊かな地を拠点とする mullan lighting。ミッドセンチュリーテイストに同社ならではの個性を加え、照明器具のデザインから製造まで自社一環で行っている。伝統を受け継ぐ職人の技術により製造される、洗練された照明のフォルムや美しいビンテージカラーなどが特長。写真の「Ashford」シリーズのペンダントライトは、ビンテージ感とモダンな優雅さが融合した円筒形のLEDペンダントライト。エッチング加工されたアクリル製のシェードから美しく独特な光を放ち、執務スペースに上質な印象を与える。サイズ：横型ℓ 1200×d150mm、縦型d150×h1020mm。

EL JEWEL LIGHTING

URL◎<https://eljewell-chandelier.com/> 電話◎(03) 5419-7751



手軽に移動ができるスマートな執務テーブル Unity

天板から脚までが滑らかにつながった美しい意匠性が魅力のテーブル。脚部は十字脚、四本脚、Y字脚の3種から選べ、どれも四方向からのアクセスが可能になっている。脚の片方がアジャスター、片方が一方向に動くローラー付きタイプは、テーブルの安定感を損なわず手軽に移動が可能。天板の高さは5種類から選べるため、ミーティングやラウンジスペースはもちろん、タッチダウンのカウンターとしてなど幅広い活用が見込める。天板と脚のカラーバリエーションも豊富に用意し、さまざまなインテリアのテイストに調和する。

オカムラ お客様相談室

URL◎<https://www.okamura.co.jp/>

電話◎0120-81-9060

柔らかな座り心地が魅力の
リクライニングアームチェア

Calma Lounge

Benjamin Hubertによるデザインの「Calma Lounge」は、オフィス内のリラックススペースやリビング向けにデザインされたリクライニングアームチェア。プライバシーを確保できる幅広いのヘッドレストや、利用者を包み込むような柔らかなクッションなど、魅力的なデザインが特徴。4枚羽根のアルミニウム製スイベルベースは、リクライニングとロックをどの位置でもシンクロすることができる。製造に接着剤を使用しないため、メンテナンスやリサイクルが容易。写真は「BU2332」。サイズ：w570×d640×h780（sh465）mm。

アンドリューワールド

URL◎<https://andrewworld.com/>

電話◎(03) 6804-2966



スタッキング・屋外使用が可能なハイスツール カイス カモメバースツール

家具の産地である福岡県大川を拠点とする家具メーカー、モープルが取り扱う「KAIS」より、カモメが翼を広げたようなフォルムが特徴のハイスツール。ハイスツールとしては珍しく、スタッキング機能を備えている。また、屋外使用も可能なので現代的なオフィスにおいても使い勝手が良い。ホワイト、グレー、オレンジ、ブルー、チャコールの5色展開。サイズ：w420×d400×h700mm、価格：89,000円。

モープル

URL◎<https://ikajas.jp/product/kais-kamome-bar-stool>

電話◎(0944) 88-1955

業界最高クラスの省エネルギー性能を実現した施設用照明器具 一体型ベースライト iDシリーズ ライトバー 環境特化タイプ

消費電力1Wあたりの明るさをあらわす固有エネルギー消費効率が205.9Lm/Wを実現した施設用照明器具「一体型ベースライトiDシリーズ ライトバー 環境特化タイプ」。製品使用時のCO₂排出量低減に貢献し、原材料調達・生産時に発生するCO₂をオフセットし、出荷時までのCO₂排出量の実質ゼロ化を実現。ライトバーの形状変更をはじめ、梱包のラベル表示の視認性向上により施工現場での作業効率も上がり、既存の照明器具からの置き換えが容易だ。照明設備の一次エネルギー消費量（BEI/L値）は、照明の単体性能において0.3以下を実現。光束（消費電力）は、4950 Lm（24.8W）～6900 Lm（33.5W）まで4タイプ、色温度は4000Kと5000Kの2種類から選べる。価格：39,160円～。

パナソニック

URL◎<https://www2.panasonic.biz/jp/lighting/facilities/baselight/id/low-carbon/>

電話◎0120-878-051



オフィス内コミュニケーションを促進するコーヒー体験 We Proudly Serve Starbucks コーヒープログラム

ネスレが提供する、オフィスでスターバックスのコーヒー体験ができると話題のコーヒープログラム。専用のフルオートのマシンを使い、スターバックスが厳選した高品質のアラビカ種コーヒー豆を使用して淹れたエスプレッソやカフェラテ、カプチーノなどの本格的でメニュー豊富なドリンクが味わえる。オフィスの休憩スペースなどに設置することで、コーヒーによるコミュニケーションが生まれ、豊かな時間を共有することができる。

ネスレ日本

URL◎<https://weproudlyservestarbucks.nestle.jp/>

Mail◎starbucks.wps@jp.nestle.com